

フクシマの子どもの未来を守る家ニュース

No. 61

明けましておめでとうございます。

本年もフクシマの親子の保養支援に、皆様の温かい応援、どうぞよろしく願いいたします。

昨年12月8日(土)、9日(日)「フクシマを忘れない」つどい ~原発事故が奪ったものは~

悪天候の中、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。(2日間で延べ33名)

また、参加者の皆様より「生業を返せ、地域を返せ、福島原発事故訴訟」に対して、カンパ12000円ご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

《福島の農家、樽川さんのお話より》

- ・事故前、樽川さんはお父さんとキャベツを虫のつかない冬に**無農薬**で栽培し、**エコファーマー**の認定も受けていた。東京で販売しておりとても人気があったが、事故後は、「福島は原発事故があったから**エコとかそんなのじゃないでしょう**」と言われ認定を受けられなくなった。
- ・事故後、放射能が稲に移行するのを防ぐため塩化カリウムをまかなければいけなくなった。散布機は**15キロ**、塩化カリウムは**20キロ**、それを背負って田んぼに散布するのは大変な**重労働**だった。その余分な作業の賃金を払うように東電に請求してもなかなか承諾しなかった。ようやく承諾しても払われず確かめてみると須賀川市がまだ東電に請求していないせいだった。
- ・こんな事故を起こしておいて、なぜ東電や国は責任を取らなくてもいいのかと思う。
- ・**風評**というのは根も葉もない**噂**のこと、原発事故による放射能の**被害**は根も葉もある**実害**だ。
- ・農作物を作って、事故前の価格との差額に賠償金が出るので、作付けをしなければ賠償金はない。なので必死で作付けをするしかない。
- ・農作物は全て放射能検査をしなければ出荷ができず、検査するためには500グラムの作物が必要となる。例えばとうもろこしだと10本ほどを無駄にすることになる。毎回検査に出し結果をもらいに行き、それを出荷する作物に添付する等手間も大変。
- ・**農家**の人は土に接していて**被ばく量**が多くなるから気をつけろと言われた。マスクをつけて作業をした方がいいが、夏は暑くてとてもつけられない。
- ・国と東電が事故のことを認めて謝罪するまで声を上げなければ、**次の世代**でも同じことが起こる。
- ・先祖代々受け継いだ農地で作物を作っているが、土への汚染は何千ベクレルもあるのは事実。**検査結果**は「**未検出**」と出るが、自分は作物を口にしないのに消費者は買っていく…。**犯罪**をしているような気持ちになる。

◆まとめ

「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟裁判で、必ず勝って、国と東電に責任を取らせましょう。



写真は講演会の様子。左から8日の会場、ゲストスピーカーの樽川さん、9日の会場。

予告：ドキュメンタリー映画「大地を受け継ぐ」試写会

1月27日(日)午後2時~ 第3コミセンにて実施

井上淳一監督作品(「戦争と一人の女」「あいつときぼうのまち」他)

※この映画は、12月にお話していただいた樽川さんが主人公です。お誘いあわせて観にきてください!

お問い合わせ先：フクシマの子どもの未来を守る家：事務局 080-6023-7490